



【左:石田正城理事長 右:西川右近総師】

文化の創造・発展へ

名古屋石田学園と西川会との包括連携協定締結
星城大学文化大使 大棟俊一先生のご活躍
芸術分野で活躍する卒業生

社会へはばたく卒業生

特集

学園アラカルト／星城懇話会 教育講演会開催

星城大学生の活躍／2017アジア華人地区大学及び高校教育国際フォーラム参加

文化の創造・発展へ

—西川会と包括連携協定締結—

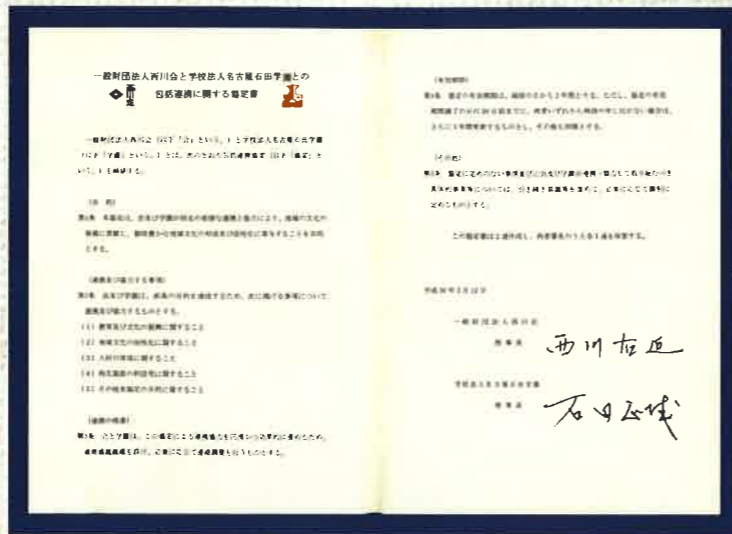
3月12日(月)、星城大学名古屋丸の内キャンパスにおいて、学校法人名古屋石田学園と一般財団法人西川会の包括連携に関する協定の締結式が行われました。

この協定は、名古屋石田学園が行う地域貢献事業の一環として締結されたものです。

名古屋石田学園は、建学の精神として、報謝の至誠、世界観の確立と共に文化の創造を掲げています。学園では、日本舞踊の5大流派のひとつとされ、地元名古屋を本拠に活動する西川会と密接に連携・協力することで、個性豊かな地域文化の形成・活性化に寄与していきます。

西川会は、その文化活動の拠点として学園諸施設を活用するとともに、星城大学文化大使でもある西川右近総師を始め、西川千雅家元、西川まさ子家元補佐、西川カーク師らによる日本文化、芸術に関する発信を、名古屋石田学園の教育諸活動に合わせて行っていきます。

両団体が相互に協力することにより、我が国の代表的な古典芸能である日本舞踊の普及、振興を図るとともに、文化・芸術・教育を通じて個性豊かな地域文化の形成及び活性化に寄与し、我が国の文化の向上、発展、そして何よりも建学の精神の具現化を図ってまいります。



西川会 西川 右近 総師 挨拶 (星城大学文化大使)



この度、西川会と名古屋石田学園が包括協定を締結できましたことを大変うれしく思っております。

日本舞踊というものは、なかなか学校教育の中にとりいれられていくということができません。残念なことですが、日本文化というものがだんだん薄れていく、こうした中で、共に連携、協力し合って、文化の発展に寄与できますことは、大変心強いことと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



名古屋石田学園 石田 正城 理事長 挨拶

今日は素晴らしい包括協定を結べましたので、学園としても大変うれしく思っております。私どもの学園の建学の精神が「彼我一体」、これは、人間が生きていくこと自体がお互いに支え合っていく、ということであります。それを基にした、「報謝の至誠」、それから「文化の創造」「世界観の確立」が学園の教育理念であります。これらは、実践から生まれることだと、私は思っております。まずは礼節から。わが学園の教育理念にぴったりと合った、伝統文化をさらに、今回、この協定において深めていけることは大変うれしいことでもあります。これから相互に研鑽し合い、協力し合っていくことを実感しております。

星城大学文化大使 大棟俊一先生のご活躍

表千家宗匠で星城大学文化大使の大棟俊一先生は、週に1回、本大学の茶道サークルで学生部員たちを指導されています。

先生は、昨年に引き続き、今年度も「茶の湯ワークショップ」を開催され、参加者にお茶を披露しながら、茶道や日本文化についてお話されました。

茶の湯ワークショップ



また、今年度の星城懇話会総会では、桑山美術館の立礼席において、参加した会員全員にお茶を点てられ、お茶や茶室にまつわるお話をしてくださいました。

先生のお話は大変軽妙洒脱で、今後も、お茶や日本文化を広めるための活躍が期待されます。

芸術分野で活躍する卒業生

ヴァイオリニスト 鈴木 絢さん
(星城高等学校 第41回生)

学生時代、礼節や、両親への感謝の気持ちなどを厳しく指導していただき、現在、指導する立場になり、中学の時に言われていたことだなあと実感しています。きちんと指導していただいたことで、苦勞は周りとは比べなかつたと思います。人を尊重したい、という気持ちは今も昔も変わっておらず、年下、年上に関係なく、大として尊重するようにしています。

ヴァイオリンは3歳の頃から始めましたが、本当に音楽の道に進みたいという気持ちが膨らんだのは中学生の時です。一見華やかに見える世界ですが、大半の時間はひたむきに楽譜をよみ練習しています。何回もチャレンジして、初めて賞をいただいた時のことは忘れられません。あきらめなくてよかったと思います。

人生、苦しいこともあるけれど、苦しさは楽しさへのプロセスと考えて、「楽しいが詰まった毎日を通り越したい」、それが私の信念です。



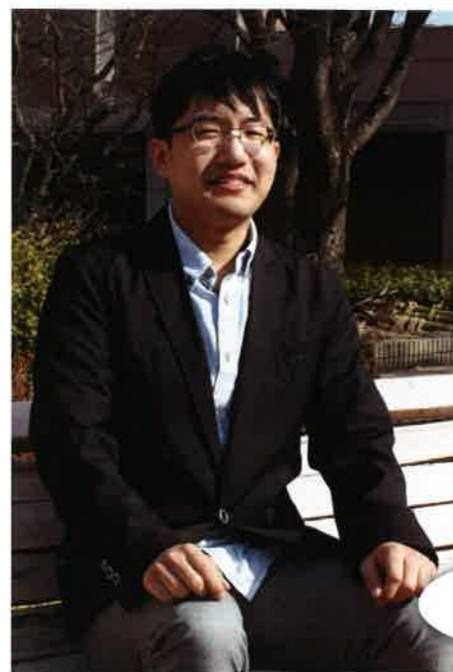
後輩へ一言!

夢は絶対にかなう!

社会へはばたく卒業生

社会生活の基盤を形作る

一般社団法人愛知県計量連合会



後輩へ一言!

真面目に、誠実に、そして感謝の気持ちを忘れずに



宮脇 健人さん

(星城大学 経営学部経営学科卒業)

「ハカリ」が正確でなければ、私たちは安心して取引などの社会生活をおくることはできません。

愛知県計量連合会は、愛知県で唯一、県から質量計(ハカリ)の定期検査機関として指定されている団体です。仕事は全て県市からの委託事業で、ハカリの定期検査という、地味ではあるけれども、社会生活の基盤を形作る重要な責任のある仕事です。

学生時代、スーパーの精肉部門でバイトをしていましたので、ハカリは扱っていましたが、計量という仕事があることは全く知らず、たまたま、キャリア支援課の方から紹介され、受験し、幸いにも合格することができました。

4月からは、連合会先輩計量士と共に、県内市町村を回り、ハカリの定期検査を行います。そして、6月には国家資格である計量士資格を取るための教習所入所試験があります。合格すると、9月から約半年、つくば市の計量研修センターで教習生活が始まります。

まだまだ、計量士となって独り立ちできる日は先ですが、まずは、6月の入所試験に合格し、無事教習所に行けるよう、持ち前の根気強さと継続力で頑張ります。

恩師のような教員を目指して

愛知県小学校教員採用試験合格

小学校教員を目指したのは、中学の野球部の監督を見て、自分も夢と希望を与えられる先生になりたいと思ったからです。星城大学に入学したのは教員免許がとれるからです。入学後、悩んだ時期もありましたが、そんな時、高校の先生に再会し、「道があるなら真ん中を歩け、周りに堂々と胸張れるように」と言葉をかけてもらい、再び教員を目指しました。そして、中学・高校の教員免許のほか、小学校の免許も取得しようと通信教育を受けました。

大学の野球部では「学生コーチ」として、選手とは違う立場で他の野球部員を指導しました。大学での「指導者実践」という授業では、実際に他の学生に対して授業を行い、授業方法についてもたくさんの引き出しを増やすことができました。

中学、高校、そして大学で出会った恩師のような教員を目指して頑張ります。



後輩へ一言!

言い訳してほしくない。堂々と、胸を張って!

山森 章生さん

(星城大学 経営学部経営学科卒業)

日本画家 安藤 由香さん
(星城高等学校 第43回生)

学生時代は、とにかく剣道三昧で毎日厳しい稽古でした。その中で得た忍耐力・精神力そして努力する事が、今の私に大きな自信を与えています。名前も顔も知らず、言葉も交わした事のない人が私の絵を見て微笑んでくれる、それを遠くから見ているのが好きです。その時「あーやってよかったな」と思います。逆境がちらつくときは、今やるべき事を考え、とにかくそれを我慢強くこなしていくことにしています。

現在は、実家の農業を手伝いながら毎日コツコツ絵を描き続けています。

私の信念は「継続は力なり」です。5年後10年後も変わらず淡々と我慢強く続けている自分です。そして辛い時ほど笑っていただける人になりたいです。



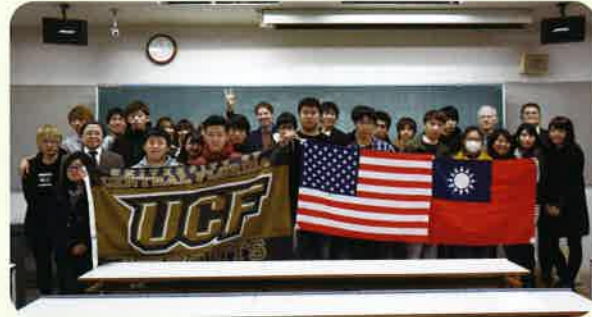
後輩へ一言!

今を思いっきり楽しんでください。心から笑って泣いて怒って、いろいろな感情と素直に向き合ってください。

学園アカルト

星城大学海外スタディツアー

星城大学



【異文化理解演習(スタディツアー)説明会集合写真】

中央大学(UCF)訪問時には、現地教授の方々との面談および施設見学なども行いました。ツアーでは、障害を持つ人のための工夫、大学の規模や学生の様子など、日本との違いを実感でき、充実した研修となりました。

平成30年2月23日(金)からの10日間、総勢25名(学生23名、教員2名)が、アメリカ、フロリダ州を訪問しました。

今回の研修は、アメリカ、フロリダ州に受け継がれる文化や、そこに暮らす人々への見識・理解を深めるために企画されました。参加者は、ケネディスペースセンターNASA、ディズニーワールドなどにも足を伸ばしながら、文化・教育そして社会全般にわたる活動に参加し、フロリダ



2月23日アメリカへ出発しました〜!

SGH 海外研修を実施

星城高等学校

SGHアソシエイト活動の一環として、12月17日から21日まで、海外研修を行いました。今回は複合民族国家としてめざましい発展を遂げたシンガポールで、多文化共生の英知を学ぶことを目的としました。参加者は高校生17名、中学生4名。現地では、日本人会や日本企業を訪問し、貴重なお話を伺うことができました。また、シンガポール国立大学の学生



たちと交流し、生徒たちが調べたい場所に案内してもらい、フィールドワークを展開しました。また、Google シンガポールを訪問し、グローバルに活躍する先輩の姿を目の当たりにした時には、目を輝かせていました。生徒たちにとって、英語でコミュニケーションすることの楽しさ・必要性を強く感じる、実り多い研修となりました。



【マーライオン】

東海テレビ、中京テレビ、CBCラジオに社会見学へ

星城中学校

2月に社会見学に行ってきました。「メディアリテラシー教育」という目的のもとで、3年生は各グループに分かれて東海テレビ、中京テレビ、CBCラジオに行きました。各メディアの現場を直接見学させてもらったり、その関係の方々からいろいろな体験もさせられていたりしていました。番組でのレポートのために、どのようにプレゼンをしていくかを実際に体験し、その難しさや重要さを教えていただきました。テレビ局の番組のセットや機材なども見学したり、実際の出演者の方にお話を聞けたりして、生徒たちにはとても貴重な体験となりました。3年生は来年度の仰星コースでのSGH活動も視野に入れていました。



【テレビ番組のセットでパシャリ!】



【ラジオ局の前で記念撮影】

生活発表会

星の城幼稚園

2月10日(土)、大府市勤労会館で、学年の締めくくりの行事となる「生活発表会」を開催しました。発表会は、各学年での成長の過程がうかがえる内容で、年少:踊りながら表現することを友達と一緒に楽しむ「リズム遊び」



【リズムに合わせて】

年中:リズムに合わせて踊ったり、友だちと台詞のかけあいを楽しみながら「劇あそび」
年長:物語のストーリーを考えながら役を演じ、台詞や動きで感情を表したりする「劇」
で構成されていました。

園児の皆が発表することに意欲的に取り組み、自分の役割を感じながら、やり遂げようとする気持ちが保護者の皆様に十分に伝わった素晴らしい発表会でした。

救命講習会の開催

星城大学リハビリテーション学院

2月6日(火)、I部・II部2年生を対象とした救命講習を行いました。本学院事務職員2名が「応急手当普及員」の資格を取得し、人命救助における呼吸の確認から胸骨圧迫・人工呼吸といった心肺蘇生法やAEDの取り扱い方、止血法などを、実技を踏まえながら指導しました。自宅や学校、街中において、いつどこで



【胸骨圧迫指導の様子】



心肺停止の方と遭遇するのとは分かりません。救急車が到着するまでの時間は、全国平均約9分と言われています。応急手当がその方の命を左右するという緊張感を持って、学生たちは真剣に講習を受け、「救命技能認定証」が交付されました。医療に携わる仕事に就くにあたって、救命技能の習得は大きな自信になったのではないのでしょうか。

星城懇話会 教育講演会開催

2月11日(日)、星城大学名古屋丸の内キャンパスにおいて、「激動する世界〜日本の針路を考える」と題して、東京新聞・中日新聞論説委員の、長谷川幸洋氏の教育講演会が開催されました。

最初に星城懇話会浦野廣高会長よりご挨拶があり、続いて、星城懇話会石田正城名誉会長、名古屋石田学園理事長の挨拶の後、講演会が始まりました。

各メディアで広くご活躍されている長谷川幸洋氏の講演は、テーマについての話から始まり、今話題のオリンピックの話をつなぎながら、日本の政治経済について、テレビでは聞けないところまで掘り下げた内容で、大変解りやすく、出席者全員が話に魅了されました。



【会場いっぱいの参加者】

かがやけ★
あいちサステイナ研究所において
本学学生が**最優秀賞を受賞**

「かがやけ★あいちサステイナ研究所」は、未来の地域の担い手となる学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるよう、愛知県が立ち上げたプロジェクトです。本学経営学部3年田中嵩也さんがこのプロジェクトに、チーム・セントレアの一員として参加し、「最優秀賞」を受賞しました。



【授賞式】

～かがやけ★あいちサステイナ研究所
に参加して～

今回、このプロジェクトに参加させていただき環境に関する考えやエコアクションが変わりました。このプロジェクトに参加する前は、環境にあまり携わっておらず何も分からない状態でしたが参加していくうちに環境への配慮、行動など考え方が変わりました。

私は、中部国際空港さんのパートナーとなり課題を解決できる提案を半年間にわたって企画・検討しました。チーム4人はそれぞれ違う学校、学部で大変でしたが、それぞれのいい提案になりました。私たちが提案した企画は、知多市の特産物「和綿」を空港内で地域の協力を得て体験する「種から育てる綿づくり」など、地域と密着して取り組んでいく、今までにない新しい緑化企画です。今年、来年と実際に現実になるのでとても楽しみです。

学生一人ひとりが環境について少しでも関心、興味を持って行動を変えていくことで未来の社会が変わるのではないかと今回このプロジェクトに参加し、それを実感しました。



【プレゼンテーションの様子】

2017アジア華人地区
大学及び高校教育国際
フォーラムに参加



【フォーラム全体写真】

11月30日(木)、海外提携校である台湾 東海大学で行われた「2017アジア華人地区大学及び高校教育国際フォーラム」に、石田直城法人本部長と星城大学野場 倅平助教の2名が参加しました。

このフォーラムでは、アジア社会の継続発展と国際視野を持った人材の育成をテーマとしています。台湾の臺中市立清水高校、中国の華僑大学管理学院、マレーシアのラーマン大学等の様々な地域の学長・校長をはじめ多数の教職員が参加し、各地域の教育体制の報告会や意見交換会が実施されました。また、台湾現地の高校を訪問し、高校生の生活面や学習面、今後の教育方針に関して話し合いました。

星城大学では、今後もこのような国際フォーラムを通じて、各地域の教育機関と連携を図り、多方面で活躍できる人材育成と教職員の学術交流を進めていきます。



【フォーラムでの発表】



学校法人
名古屋石田学園

〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目14番32号
Tel: 052-221-8921
Fax: 052-689-6003
URL: <http://www.n-ishida.ac.jp/>